

2019

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.69

2019年参議院議員選挙投票率 48.8%

—ワースト2の低投票率—

2019年7月21日(日)、令和になって初めての国政選挙である第25回参議院議員通常選挙が行われた。が、小泉進次郎氏が選挙報道特番でコメントしていたように、実に「熱がない」選挙であった。その証拠に投票率は戦後ワースト2の48.8%と半分を切った。

選挙直後も翌日の吉本興業・岡本社長の5時間半に及ぶ記者会見の方が注目されるような事態となった。

これまでの国政選挙で史上最低の投票率は、1995年7月に行われた参議院選挙の44.52%である。参議院選挙は、真の意味で政権を決める衆議院選挙に比べ関心度が低く、投票率が下がる傾向はあるが、それ以前の1992年の参議院選挙の投票率は50.7%でなんとか50%を切る寸前で踏みとどまっていた。しかし、1995年はバブル崩壊後の退廃感もあり、国民の関心が得られなかったと思われる。

この1995年は、2019年同様、4月に統一地方選が行われた。青島幸男東京都知事や横山ノック大阪府知事の誕生につながった年でもあり、無党派層や無関心層が増加した時期であったともいえる。また4月の統一地方選挙と同年に行われた選挙で、イノシシ年にあたるためいわゆる「亥年現象」のせいではないかともいわれた。いずれにしても政治自体が負けた選挙であるともいえる。

そもそも争点といえば、「年金2000万円問題」「憲法改正問題」などがいわれたが、どれも強い関心を持たれるようなモノではなかった。むしろここ数年のモリカケ問題やそれに連動する官庁の公式文書改ざん問題、また前回の衆議院議員選挙から続く野党の離合集散、安倍一強体制の継続など国や政治に対する不信感が増し、期待感が持たれなかったともいえる。

そんな中で注目を集めたのが、結成3カ月、政党要件を満たさず諸派の扱いで活動した「れいわ新選組」の躍進ぶりである。228万764票、総得票の4.5%を獲得し、代表の山本太郎氏は比例全候補者155人中、最多の99万2267票を獲得したものの落選したが、今回から採用された特定枠で、難病「ALS(筋萎縮性側索硬化症)」患者の船後靖彦氏と、脳性まひで重度障害者の木村英子氏の2名を当選させた。この実績は政党要件を満たせるか注目された老舗の社会民主党の2%をはるかに上回る成果であった。

また統一地方選から各地で注目を集めたN国こと「NHKから国民を守る党」も比例代表で約98万7885票を獲得し、立花孝志代表が当選した。これらの結果も現行の既成政党に対するアンチテーゼであったともいえる。

いずれにしても半数以下の得票率で国の行方が決まっていくというのは異常事態である。「政治が負けた」という表現で括るわけにはいかないのではないかな。

参院選の投票率の推移



出典：総務省統計資料

【参照】

数字で振り返る参院選(上) 99万票…比例最高得票でも落選
<https://www.sankei.com/politics/news/190724/plit1907240031-n1.html>

勝者はれいわとN国?笑顔なき「参院選通信簿」
<https://toyokeizai.net/articles/-/294311>

今回の選挙から「投票率」と「投票行動」を考える
<https://news.yahoo.co.jp/byline/ishidamasahiko/20190723-00135355/>



美楽からの一言

25%政治というような表現がささやかれている。有権者の半数の投票、その中で過半数、すなわち25%の勢力によって、国の行く末が決まっていくという事象を皮肉った表現である。そんな現実を当たり前にはいけないのではないかな。有権者一人ひとりが意識を変える必要がある。またそうさせてくれる政治家の誕生を期待したい。